

たきせ 滝瀬遺跡

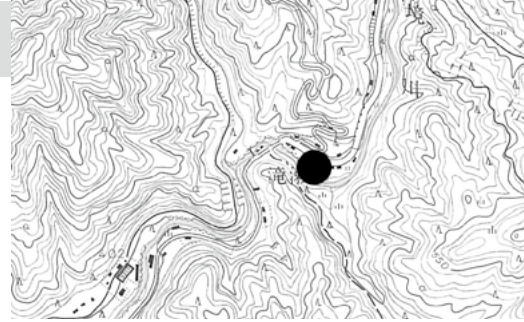
所在地 北設楽郡設楽町八橋字タキセ
(北緯35度7分10秒 東経137度34分55秒)

調査理由 設楽ダム

調査期間 平成28年4月～11月

調査面積 5,520㎡

担当者 川添和暁・早野浩二



調査地点(1/2.5万「田口」)

調査の経過 調査は、国土交通省中部地方整備局による設楽ダム関連事業に伴う事前調査として、愛知県教育委員会より委託を受けて、平成28年4月から11月にかけて実施された。調査対象範囲は、県道10号線の南側、平成27年度調査15区の周囲である。

立地と環境 遺跡は標高約425m、境川北岸の山麓緩傾斜地および河岸段丘面上に立地する。当地は北流する境川が大きく蛇行し、南側から沢が合流する地点で、境川に対して舌状に張り出した南向きの緩斜面となっている。遺跡内には、旧伊那街道が通っていたことが知られており、調査区外の街道脇の石垣には旅人によって描かれたという「落書き石」があった。

調査の概要 調査では15区を挟んで、東側にA区・西側にB区を設定した。調査の都合上、B区をさらにBa区・Bb区・Bc区・Bd区の4区に分けることとなった。

見つかった遺構・遺物の時代は、縄文時代・古墳時代初頭・中世・近世以降で、疎密はあるものの、縄文時代の遺構・遺物が調査区全体で見つかった。以下、調査区別に概要を報告する。

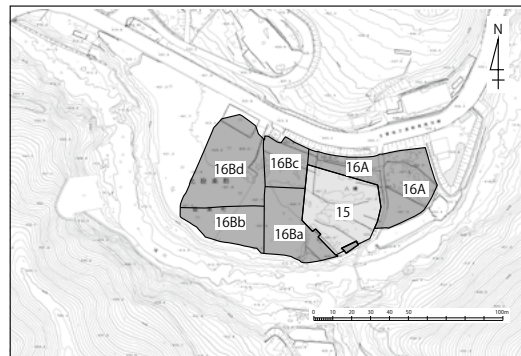
A 区 15区の北側および東側に接して設けられた調査区である。調査前の地形は、南側に向かって三段の水田などの耕作地となっており、A区の中央(15区東端)には、旧伊那街道が畦道状に造成されていた。耕作地の造営による削平もあったためか、各段の川側に当たる下手(南側)で、遺構・遺物は良好に確認された。遺構・包含層からは、縄文時代早期・中期後半・後期前葉～中葉・中世・近世以降の遺物が出土した。

縄文早期 縄文時代早期の遺物は、調査区北東端の黒色土下でややまとまって見つかった。出土土器はポジティブな楕円押型文土器であり、トロトロ石器も1点した。トロトロ石器はチャート製で、長さ35mm・幅26mm・厚さ6mm、研磨や磨滅などにより両平面の中央稜線は鈍くなっている。なお、側面の稜線は鋭いままである。

縄文中期 縄文時代中期後半の遺構として、竪穴建物跡(201SI・215SI)と、土坑(315SK)が調査された。201SIと215SIは重複関係にあり、201SIが後のものである。両者とも軸が5m

竪穴建物跡 弱の、平面プラン五角形を呈するもので、四隅に支柱穴を持つ。201SIの中央には、4辺を大きな板石で囲む石囲炉跡(205SL)が認められた。土坑315SKは、調査区中央の段差際で見つかった。遺構内からは中期後半の土器片がまとまって出土した。

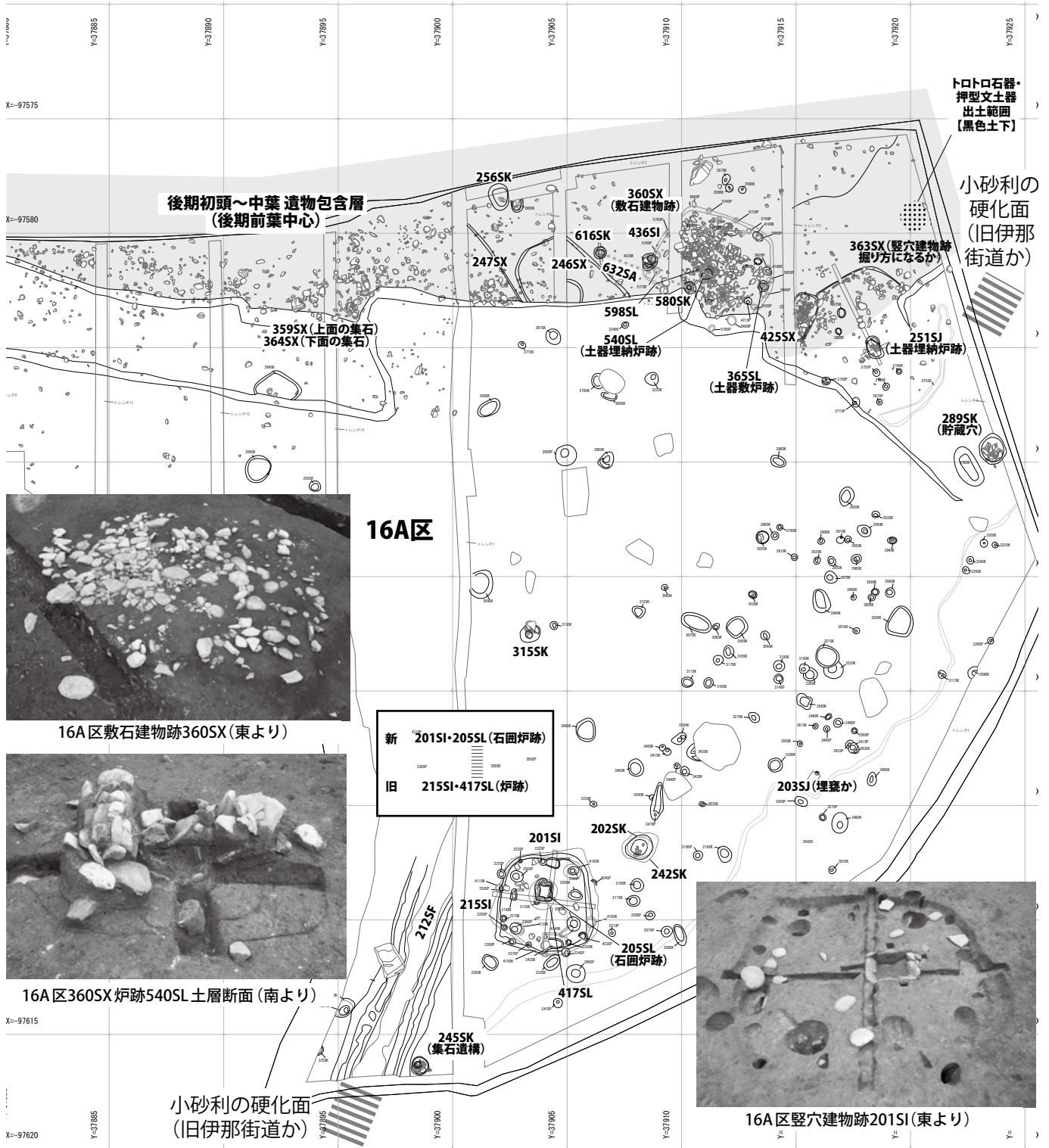
縄文後期 今年度の調査では、縄文時代後期前葉～中葉の遺構・遺物が最もまとま



調査区位置図(1:4,000)



16A区北東端遺構など重複関係様式図 (破線による上下は切り合いなどで新旧関係が確認されているもの)



16A区北東端遺構など重複関係様式図 (上) と16A区遺構位置図 (1:250) (下) 【マス目は5m】

っている。確認された遺構としては、敷石建物跡1棟(360SX・炉跡540SL)、竪穴建物跡2棟(363SX・炉跡251SJ、436SI・炉跡598SL)、貯蔵穴1基(289SK)、その他土坑3基(202SK[242SK]・256SK・425SX)、土器埋設遺構1基(203SJ)、建物跡との関係が確認できなかった土器敷炉跡1基(365SL)、および遺物包含層である。遺物包含層である黒褐色粘質シルト層は、特に調査区北端で40×8mの範囲に渡り、良好に残存していた。ここで見つかった遺物包含層は、土器片・石器や剥片石核類を多量に包含する上、247SX・364SX・359SXなど配石遺構あるいは集石遺構を含むことから、人為的作用によって壘重して形成されていたものと考えられる。

敷石建物跡 敷石建物跡360SXは、遺物包含層である黒褐色粘土質シルト中に形成されたもので、床面と炉跡・ピットが検出された。礫の配された(配石)範囲は、480cm×440cmに及び、中には主軸を形成する幅50cmほどの石列が、北東-南西方向に認められる。この配石の様子は北西側4分の1と、南西側4分の1、さらには東側2分の1で、それぞれ様相が異なる。北東側は、敷石の重複が著しく、最大3重に渡り壘重する様子が確認された。東側も部分的に2重の重なりが認められるところもあるが、中央を基点として環状に配されている様子が特徴的に認められる。一方、南西側は配石の形成自体が著しくなかった。調査を進めたところ、若干ではあるが、配石の周囲でピットが確認され、中央からは土器埋納炉跡(504SL)も見つかった。周囲の遺物土器は後期前葉を主体とし、黒曜石の剥片石核類や大型石棒片も見つかった。なお、この敷石建物跡は、先行する竪穴建物跡(436SI)に重複して築かれていた。436SIの埋土は黒色を呈した炭化物・焼土を多く含む黒褐色粘土質シルト層であり、この層中に360SXの床面に当たる配石が確認された。

土器埋納炉跡 敷石建物跡360SXの東側では、土器埋納炉跡(251SJ)に伴う落ち込み(363SX)を確認しており、これも竪穴建物跡である可能性が考えられる。また、360SXの床面より若干上位レベルで、土器敷炉跡(365SL)が確認された。これも竪穴建物跡に伴うものであるならば、当地は繰り返し居住が行われた場所であったと考えられる。その一方で、長軸2m×短軸1mほどの長方形の土坑も見ついている。遺構検出面では礫が多量に認められたもので、遺構底面からは注口土器の注口部が出土した。形状から土坑墓であった可能性が考えられる。

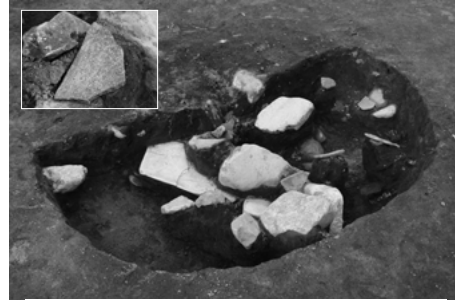
竪穴建物跡 調査時に黒褐色の遺物包含層が残存していないところでも、縄文時代後期の遺構が確認された。289SKは径1mほどの遺構である。断面の一部が袋状を呈することと、掘り込みの重複が認められること、さらには堅果類と考えられる炭化種実が出土したことから、貯蔵穴と考えられるものである。203SJは調査区南側で見つかった、土器埋設遺構である。立位で埋納された深鉢底部付近しか残存しておらず、埋設当時の状況を勘案すると、少なくとも30cmは以上は削平されたものと想定され、本来は埋甕であった可能性がある。202SKと242Kは径1mほどの重複して見つかった土坑で、元々は貯蔵穴であった可能性がある。遺構底面からは礫のほか、土器片・擦切具・大型の砥石・台石がまとまって出土した。

土坑墓 その他16A区での縄文時代の出土遺物には、縄文土器のほか、石鏃・スクレイパー・打製石斧・礫器・打欠石錘・有溝石錘・磨石敲石類・石皿台石類がある。石鏃など小型剥片石器に関連する黒曜石などの剥片石核類がある一方で、打製石斧・刃器などの大型剥片石器に関連する安山岩の剥片石核類が多量に出土した。

貯蔵穴 16A区の南端では、近世以降の道路状遺構も見つかった。最大で幅2.5mの溝状を呈するもので、長さ約7mに渡る。両端には溝状の落ち込みがあり、その間には小砂利が敷き

伊那街道

詰められており、極めて固くしまっていた。この場所は、調査前に認識された旧伊那街道と重複した関係で見つかり、さらに前段階の伊那街道であった可能性が高い。調査区東壁の北側にも小砂利が敷かれた凹みが存在しており、かつては16A区内を横断するように街道が走っていたものと考えられる。



16A区土坑202SK遺物出土状況(南東より)
左上は擦切具出土状況

16B区

16B区でも縄文時代早期～後期中葉の遺構・遺物が見つかり、残存状況は散発的であった。土器の出土は希少である一方、大型剥片石器に対応する安山岩の剥片石核類は調査区全体で広く出土した。



16A区貯蔵穴289SK土層断面(西より)
左上は炭化種実出土状況

集石土坑

16Ba区では、縄文時代早期後半の土坑(427SK)や、中期後半の土坑(431SK)が調査された。その他、集石土坑(432SK・475SK)も確認された。

黒曜石の集中出土

16Bb区では、境川へと続く谷地形の肩部分では、土器片とともに黒曜石剥片が100点ほど集中して出土した。石器の調整などを行った作業場として利用されたかもしれない。



16A区土器埋納炉跡251SJ土層断面(南より)

土器埋設炉跡?

16Bc区では、調査区中央で、古墳時代初頭の遺物がまとまって出土する遺構(361SX)を確認した。

16Bd区では、時期など不詳であるが、土器埋設炉跡の可能性のある遺構(622SL)が見つかった。

まとめ

今回の調査で、縄文時代中期後半以前の遺構・遺物が見つかる黄褐色砂質シルトと、後期前葉から中葉の黒褐色粘土質シルト(遺物包含層)との層序関係を確認することができた。特に、16A区で見つかった遺物包含層は、当時の廃棄行為・配石や集石行為・埋葬行為・さらには竪穴建物跡などの居住活動などが重複して行われた結果、形成されたものであった。換言すると、この包含層自体、遺構の複合体として考えるべきでもある。縄文時代後晩期の遺跡調査において、このような遺物包含層は貴重な情報を多く含む結果であることが、改めて認識させられるものとなった。その上で、今回の調査で見つかった敷石建物跡は、関東・東海東部・中部高地との関連性を考える上で、貴重な調査事例となった。



16A区トロトロ石器出土状況



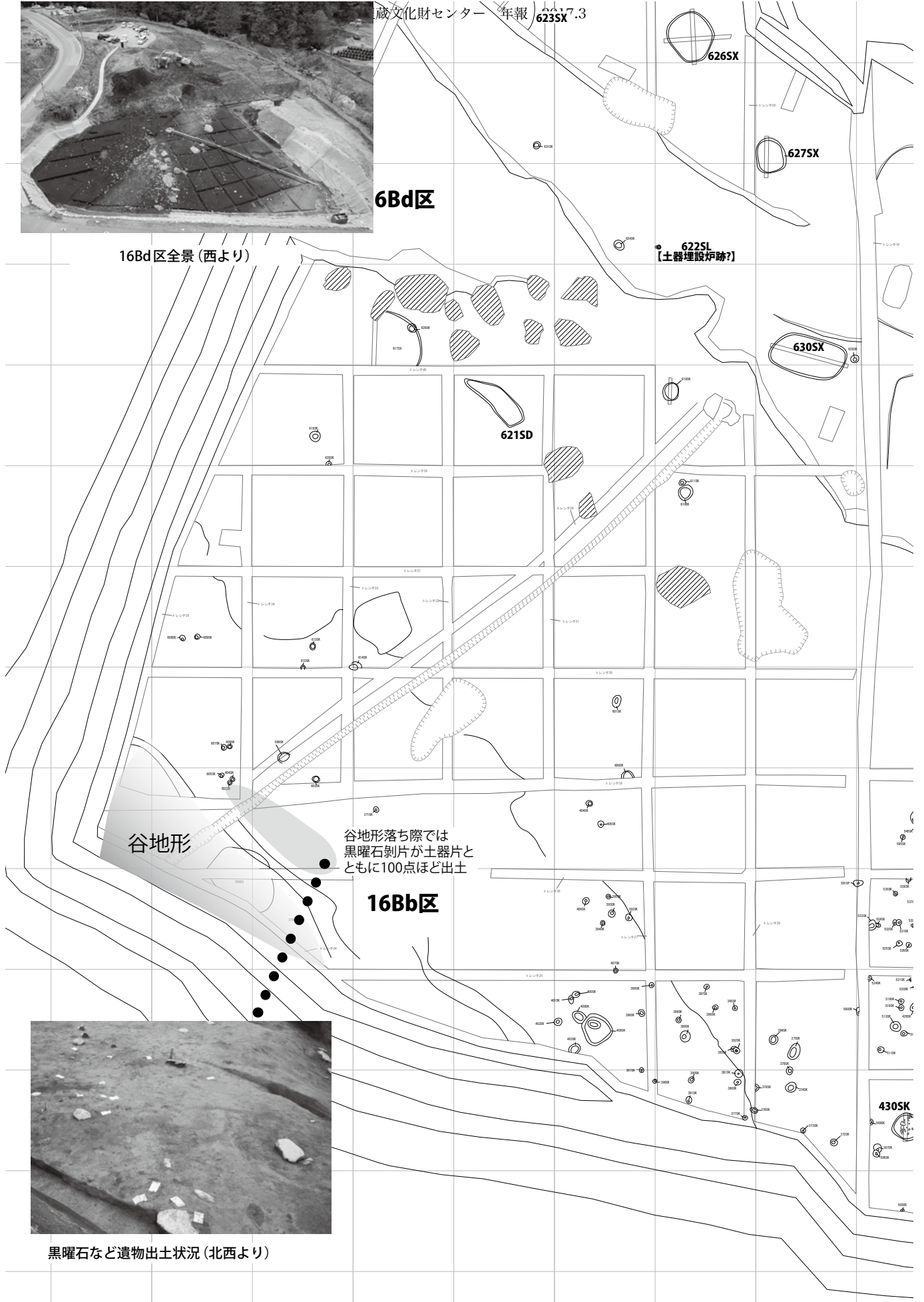
16A区道路状遺構212SF(北西より)

(川添和暁)



6Bd区

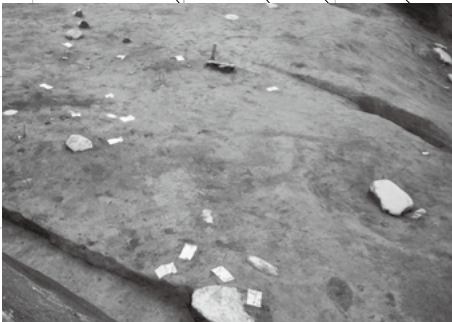
16Bd区全景 (西より)



谷地形

谷地形落ち際には
黒曜石剥片が土器片と
ともに100点ほど出土

16Bb区



黒曜石など遺物出土状況 (北西より)

Y=37785

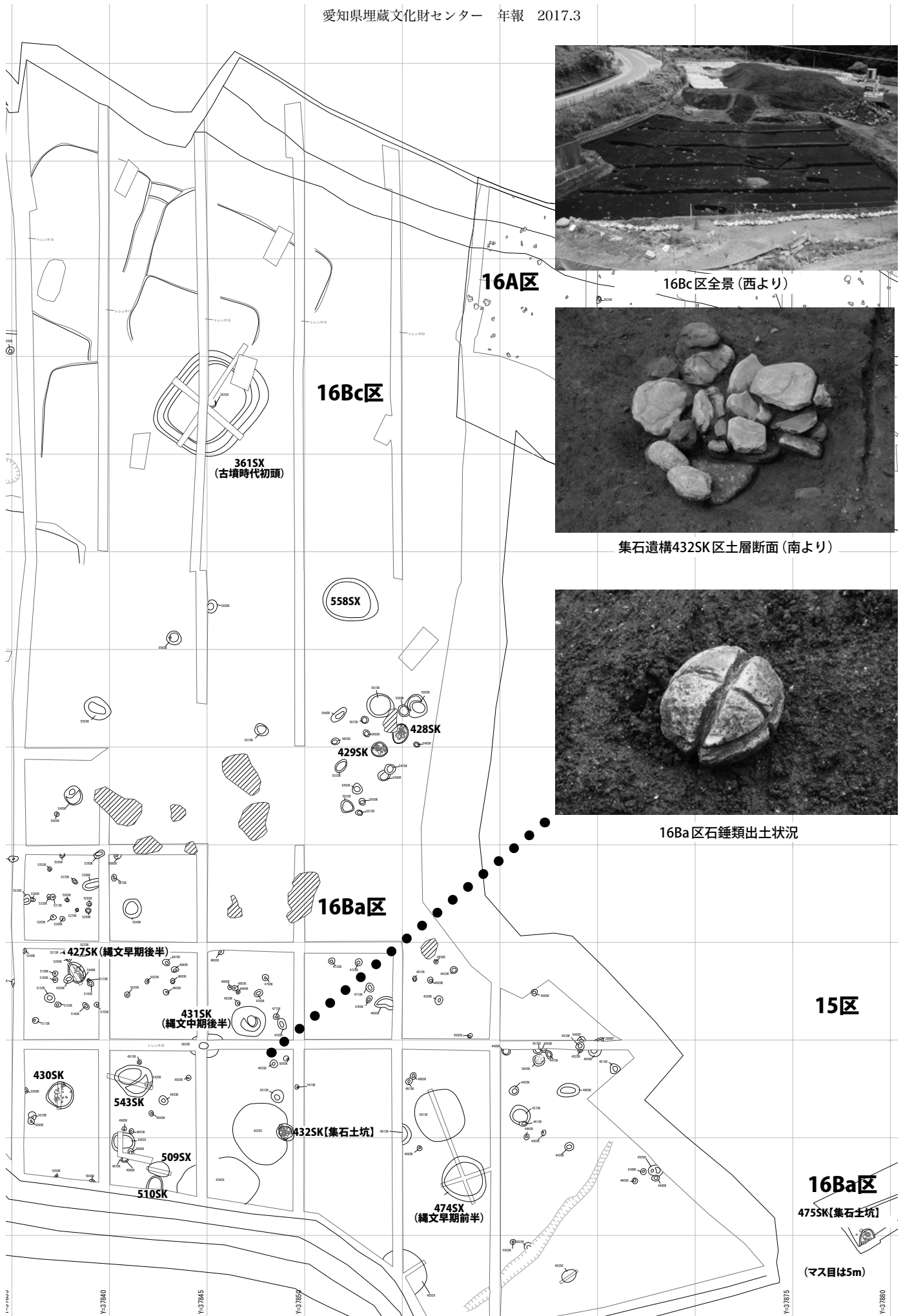
Y=37800

Y=37805

Y=37810

Y=37815

16B区遺構位置図 (1:250) 【マス目は5m】



16Bc区全景 (西より)



集石遺構432SK区土層断面 (南より)



16Ba区石錘類出土状況

15区

16Ba区

475SK【集石土坑】

(マス目は5m)